



投 光 器

国労東海貨物協議会
2014年3月8日
発行責任者 鈴木和巳

東海貨物協議会「14春闘学習会」開催！

3月4日（火）14時より静岡交通ビルにおいて、役員及び職場代表者など20名が結集する中、「2014春闘学習・総決起集会」が開催されました。

大金副議長の開会挨拶で始まり、鈴木議長から貨物会社を巡る情勢、東海本部上野書記長から今春闘に対する取り組みと情勢報告、全国貨物協議会瓜田事務次長から本社工交における会社の現状及び見通しと収入動向など、春闘署名取り組み時における他労組組合員との総対話、今春闘に対して強い意識と交渉をもって臨むこと、組織拡大の更なる強化と前進等の挨拶及び提起がされました。続いて加藤事務長からダイヤ改正における支社工交の経緯と問題点の報告を受けるとともに、ダイヤ改正以降の見直し要求及び職場環境改善要求の集約に向けての要請がされました。



（東海貨物協鈴木議長）

毎年恒例となっている春闘学習会ですが、これまでは講師を招聘し「労働法制」「構造矛盾」「年休」「労働組合」等を様々な角度から学習し知識と見識を深めてきました。今回の学習会では目先を変え、講師を招くのではなく東海貨物協議会役員の中から講師役を選出し、一問一答方式で進めていくこととなり、第1回目（次があるかは疑問ですが？）は、井上・大金各地方協議会議長が講師？を務めることになりました。

学習会は、春闘とは「春季生活闘争の略」であることから始まり、春闘の目的として定期昇給の実施、生涯賃金に反映するベアの重要性、労働条件及び国民的要求の改善、春闘の形成として経労委報告（経営者側の指針）と労働者側の要求、今春闘の背景としてアベノミクスの概要と政策、円安基調、株式市場の高揚、消費税増税、社会保障費の負担増、非正規労働者の拡大（ワーキングプアなどの格差問題）、春闘における貨物会社の状況として貨物会社の成り立ちと経営側の考え方、構造矛盾、内部留保の拡大など、講師も共に学習する場となり参加者も普段の学習会と違い一問一答だけに、講師からいつ質問が来るのか、また座談会のように遠慮することなく意見や疑問を提起できることから様々な疑問・質問が出され、講師の理解の範疇を超える問題には、上野書記長等の助けを借りながら学習会を終えることが出来ました。



（東海本部上野書記長）

今春闘において、国労は1万円のベアを要求し闘いますが、この金額は賃金実態調査に基づき算出した数字であり、貨物会社の現資産状況を見れば支払い可能な金額であり、国労の要求の正当性を再確認する学習会となりました。

最後に、鈴木議長の「団結ガンバロー」で学習会を締め、修了後の懇親会では職場の問題や運動に対する議論が白熱し、親交と団結を深める中で労働条件改善と更なる組織拡大に向け奮闘する決意を誓い合いました。

厳しい情勢の中での春闘ですが、当日の寄せ書きをはじめ本社・支社へのFAX行動、現場長申し入れ、全貨協ビラの活用による対話運動等、「ベア満額獲得」に向け奮闘しましょう。